

事業所保存・閲覧用

(実績報告時の添付書類などには、この表紙ではなく、当機関にご返送いただく
正本[評価者の個人名が記載されているもの]の表紙をコピーしてご使用ください)

平成27年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2015年12月4日

社会福祉法人童愛会
立川たんぽぽ保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

<p>評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)</p>	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	立川たんぽぽ保育園			
事業所連絡先	〒	190-0013		
	所在地	東京都立川市富士見町6-59-1		
	TEL	042-526-0280		
事業所代表者氏名	尾林 由見			
契約日	2015 年	7 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2015 年	7 月	13 日	
利用者調査結果報告日	2015 年	9 月	9 日	
自己評価の調査票配布日	2015 年	7 月	2 日	
自己評価結果報告日	2015 年	9 月	9 日	
訪問調査日	2015 年	9 月	14 日	
評価合議日	2015 年	9 月	14 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>利用者調査では開始時に調査の趣旨などを記した依頼状・園内掲示用のポスターなどで理解促進の一助とし、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付するとともに、投函期限も延長して回収率向上を図った。事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。</p>			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもが心身共に健やかに育成されるよう支援する。 2)保護者が安心して子育てができるよう支援する。 3)地域の子育て家庭を支援する。 4)教育・福祉機関と連携し、地域福祉の向上に努める。 5)職員は専門家としての知識や技術を身につけ子どもや家庭を支援する。</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>誠実、勤勉な人柄で安定した情緒と社会人としての責任感を備えていること。子どもや保護者の人格を尊重し、保護者や家庭のおかれている社会状況に目を向け、理解するために努力できること。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>職員一人ひとりが自分の職務に対する専門性を身につけ、日常的に高めていくこと。自分の職務に責任を持ち、同僚の仕事尊重しながら共同すること。経験のある職員は、実践や研修の成果を日常的に発揮して、若い職員を励ましていくこと。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯63(在籍児童数72)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

63

共通評価項目による調査対象者数

63

共通評価項目による調査の有効回答者数

31

利用者総数に対する回答者割合(%)

49.2

利用者調査全体のコメント

園に対する総合的な満足度は「大変満足」58.1%・「満足」38.7%の計96.8%と高い値を得ており、設問別でも「食事」「整理整頓・清潔」「子どもの気持ちの尊重」など全16問中14問で80%台～100%の高い支持を得ている。自由意見では「子ども一人ひとりを大事にし、個性を尊重してくれ、のびのびと生活できるように職員の方々がそれぞれ工夫してくれている」「乳児クラスは担当制で、毎日同じ方が子どもにも親にも関わってくれることは子どもだけでなく保護者も安心でき、園での子どもの様子も担当に聞けばきちんと把握でき、相談もしやすい」「子ども一人ひとりをきちんと見てくれ、状態に合わせて柔軟な保育をしてくれるので安心して預けることができ、食事安全でおいしいものを提供し、具合が悪い時も体調などをよく見てくれる」「大変丁寧な保育で、一人ひとりのよいところを引き出し、日々の生活の中で大切なことを身につけさせてくれる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては子どもの様子の報告・説明、保護者の負担や就労等への配慮、保護者や子どもへの接遇に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	30	0	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は100%で、有効回答者30人全員が「はい」と答えている。 自由意見は3件で、「手作りで作ってくれ、メニューも目で見ておいしいようなもののばかりでとても参考になり、子どもに合わせて食べられるものに変更するなどの配慮もありがたい」「試食できることがあり、とても素晴らしい」のほか、献立の充実に関する意見が見られた。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	24	3	0	4
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は「子どもが自由に考えたりしながらのびのびと遊べるよう、十分工夫されており、決して広い空間ではないが、大切なのは広さではなく、どれだけ充実した空間で遊べるかであることを実感できる」「よく工夫してくれている」の2件があった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	25	2	1	3
「はい」が89.3%、「どちらともいえない」が7.1%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見は2件で、「まだ延長を利用したことはないが、連絡を入れれば対応してくれる」のほか、受付時の対応や利用の融通性について、さらなる配慮を望む声も見られる。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	15	14	1	1
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が46.7%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は2件で、遊具の安全面や外部侵入対策について、気になる点が挙げられている。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	16	11	4	0
「はい」が51.6%、「どちらともいえない」が35.5%、「いいえ」が12.9%となっている。 自由意見は2件で、行事の日程等における各家庭の負担や就労等の事情へのさらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	28	3	0	0
「はい」が90.3%、「どちらともいえない」が9.7%となっている。 自由意見は「先生はもちろん園長先生がとても素敵な方で、安心できる」の1件があった。				
7. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	26	4	0	1
「はい」が86.7%、「どちらともいえない」が13.3%となっている。 自由意見は「忙しい中、いつも笑顔で時間を割いてくれる」の1件があった。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	2	0	0
「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が6.5%となっている。 自由意見は4件で、「手作りおもちゃが多く、安全で楽しく、子ども達が自分で考えたりしながら、自由に楽しく遊べる工夫がされており、毎朝パートの方が掃除をしてくれている」「清掃員の方が毎日きれいにしてくれるのがありたく、保育士も保育に集中できるので素晴らしいと思う」「吊るし遊具が吊るしっぱなしではなく翌日交換されている」のほか、防虫対策についてさらなる配慮を望む声も寄せられている。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	26	2	3	0
「はい」が83.9%、「どちらともいえない」が6.5%、「いいえ」が9.7%となっている。 自由意見は2件で、「優しく温かい言葉かけや気遣いを、親にも子どもに対してもしてくれる」のほか、職員の接遇について、さらなる向上を求める声も見られる。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	25	5	0	1
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は「小さな変化にも気付いて知らせてくれるのは、いつも一人ひとりをよく見てくれているからこそできることだと思う」の1件が寄せられている。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	20	4	0	7
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	29	2	0	0
「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が6.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	24	4	0	3
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	27	3	1	0
「はい」が87.1%、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は「説明不足なこともあったが、説明自体はわかりやすかった」の1件があった。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	22	5	0	4
「はい」が81.5%、「どちらともいえない」が18.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	23	2	0	6
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が8.0%となっており、昨年度（「はい」79.3%）に比べて改善が見られる。 自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	各種の媒体や機会を通じ、園の目指す保育のあり方を職員・保護者等に表明している 子どもの人格・尊厳の尊重、身の回りの自然や社会との関わり、同年齢・異年齢の友達との交流の中で「あたま・からだ・こころ」を育むことなど、園の目指す保育のあり方を保育目標とし、各種の媒体や機会を通じて職員・保護者や地域に表明している。保護者には入園時や懇談会などの折に、「乳児の保育」「幼児の保育」などの資料も活用して園の思いや保育内容を伝え、今年度は年度当初にも掲示などを通じて再想起を図っている。職員には入職時の個別説明や保育課程への記載、年2回行う保育・運営のまとめ会議での振り返りなどで周知を図っている。 園長が経営層の職責や方針をさまざまな方法で職員に伝え、園の統率にあたっている 運営規程に園長を含む各職位・職種の役割分担等が示されるほか、毎年度当初に園長が年度事業計画と「運営方針」を作成し、これをもとに職員会議で園の統率者としての意思を表明している。また毎月作成する「園内かわらばん」にも法人・園の近況や社会福祉法人を取り巻く環境をつづるなど、園運営の主幹として発信に努めている。個々の職員が適性や能力を活かすことのできる職場づくりを心がけ、本年10月からの市内公立園の民営化受託も、その中核を担う職員たちが新たなキャリアを切り拓き、成長を得ることができる機会と位置づけている。 運営委員会・法人理事会を機会として、園・法人それぞれの単位での意思決定をしている 園内での重要案件の検討・決定は、園長・クラスリーダー・フリー保育士・調理担当が毎月及び必要に応じ行う運営委員会でを行い、決定内容を「園内かわらばん」の回覧を通じて共有するとともに、非常勤職員にはパート会議や共有スペースでの掲示、個別の口頭伝達で伝えていく。事業計画・報告、予算・決算、職員採用や規程等の改廃など法人としての重要決定は理事会で行っている。保護者には案件に応じ、園便りその他の書面配付や掲示、懇談会等で伝達しており、直近の例ではおむつ代の徴収額や積算方法の変更などがある。	

2		経営における社会的責任		カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○非該当	

サブカテゴリ-2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
評価項目3 地域との関係機関との連携を図っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域との関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
カテゴリ-2の講評		
職員の倫理・規範の周知徹底や園としての透明性の確保に取り組んでいる 就業規則中の「服務規律」に職員の基本的な心得が列挙されている。今般の法人第3園の開始にあたり、新規職員も増えることから、現場での認識共有に資するより具体的な手引き・基準書などの策定を課題と考えており、当園園長が中心となって法人統一の行動規範の作成を進めている。また保護者の意見をきっかけに会議で保護者への接遇を振り返り、望ましい対応を検討するなどの取組も行っている。都の制度に基づく第三者評価の受審・公表や利用者調査実施に継続して取り組むほか、園のホームページでも各種情報を発信し、透明性確保に努めている。		
地域に保育の専門性を還元する機会をさまざまに設け、積極的に取り組んでいる 地域向けの「子育てひろば」事業として、企画対象を0歳児世帯と1・2歳児世帯とに分け、わらべうた講座や自由遊び、クッキー作りや今年度新設の芋掘り体験などを提供しており、例年ではこの中で看護師によるスキンケア講座、栄養士の離乳食講座なども行っている。また助産師を招いての妊婦向け講座「プレママのひろば」、夕涼み会・「親子で文化を楽しむ会」など園行事の開放なども実施している。これらの取組は過去の来園者への案内の郵送、児童館・図書館や病院・健康会館などでの広報、市の子育て情報紙への掲載などを通じて市民に発信している。		
ボランティア等の受け入れの体制を整え、地域の諸機関との連携・協働にも努めている 職業体験の中学生や小学生の保育ボランティア、保育士養成校からの実習生が来園しており、基本方針や受け入れ体制、来園時の説明内容などを記したマニュアルに基づいて対応している。園の所在する地域を含む中学校区内の小中学校や保育所・幼稚園、子ども家庭支援センター、民生委員、行政等による子ども支援ネットワークの会議に園長が出席し、虐待や家庭支援などについて情報共有や課題検討に加わるほか、地域の児童館が行う交流会で地域の町会、小学校関係者、保育所・児童館などとともに子育てや要支援家庭の見守りなどに取り組んでいる。		

カテゴリ3			
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
サブカテゴリ1 (3-1)			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○非該当
カテゴリ3の講評			
<p>さまざまな方法で保護者の個別の意見・要望を把握し、解決と改善への反映に努めている</p> <p>玄関に意見箱を設けるほか、苦情解決制度を整備し、入園時の説明と玄関での掲示、規程等の閲覧や園便りへの掲載によって周知に努めている。その他日常的な保護者との交流を通じて把握された個別の意見・要望とともに、内容や対応経過は「園内かわらばん」や会議を通じて組織内で共有することとなっている。保護者の意見を参考に、各世帯で園に常置する子どもの衣類などの日用品を保護者が把握できるように記録様式を整備したり、重要な通知については掲示のみでなく書面の配付も行うことを仕組み化するなど、寄せられた声を改善に活かしている。</p> <p>行事等の機会にアンケートを実施し、保護者の意向を集約して改善に活かしている</p> <p>1歳以上児で保育参観と同日に行う給食試食、幼児クラスの「クラス交流会」・親子遠足などの保護者参加行事では、書面または連絡帳で感想や要望を把握しており、前掲の写真展示についてもアンケートを行っている。これらは必要に応じ回答を集計し、掲示や園便りを通じて保護者にも結果を伝えている。また例年行う都の制度に基づく利用者調査も意向把握の機会としている。行事の日程について、参加の利便向上を望む声をもとに一部の平日行事を土曜日に移動し、会場も週末でも込み合わない場所を選定するなど、把握した要望から改善を図っている。</p> <p>保育の制度・政策に関する情報を収集・活用し、地域子育て支援の充実にも努めている</p> <p>市の私立園長向け事務連絡会、関係団体からの通信物などを通じて、市内の情勢や市・都及び国の保育制度・政策を把握しており、情報はファイルやスクラップに整理するとともに、休憩室で随時閲覧に供している。中でも重要なものには園長が付箋を貼るなどして、職員の確認を促しているほか、社会福祉法人に求められる社会的な要請など、昨今の情勢を年間事業計画や「園内かわらばん」を通じて園長が伝え、啓発につなげる取組も行っている。また「子育てひろば」活動の利用者へのアンケートを実施し、これをもとに今年度は芋掘り体験を新設している。</p>			

カテゴリ4		
4 計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
標準項目		
評価	標準項目	評価
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>中・長期と年度の各計画を作成・実行するほか、新園開設への対応にも取り組んでいる</p> <p>28年度末までの5年間に想定される施設整備について定めた24年度開始の5か年計画があり、計画は中途ながら、市立園の運営委託など情勢の変化もあり、現在は休止している状況である。年度の事業計画には年間の園運営における定型的事項などを列挙し、事業の概要を示している。計画は園長が作成し、毎年度各職員が行う自己評価や個別の面談、各種会議などから現場の意向を把握する仕組みとしている。また新園開設に伴う職員異動への対応・事務機能の強化を年度の重点課題とし、新人研修や会議の進め方を見直すなどの取組を行っている。</p> <p>現場からの課題抽出や行事の計画的実施・保護者の意向把握の仕組みを整えている</p> <p>全常勤職員が参加する会議として、年度当初の方針会議と前後期の総括の計3回が年間に開かれている。方針会議では事業計画の提示や各クラス及び専門職からの方針発表、前後期総括では保育全般の振り返りや事業計画の進捗確認を行い、現場の認識共有と課題抽出の機会としている。短期的な活動のうち、幼児を中心に企画開催される行事については提案書の作成と幼児会議での検討によって役割分担や進捗スケジュール、当日の進行手順などを決め、終了後に会議で反省を行うとともに、保護者の感想などを把握して次年度に引き継ぐ流れとなっている。</p> <p>防災における対応体制の明確化や地域との連携、危険事例の収集などに取り組んでいる</p> <p>毎月の訓練で災害時の対応を確認し、消防署には消防車の来園や消火指導などの協力も得ている。また「防災時組織体制」を策定し、休日・早朝・夜間の地震発生時の対応体制を震度別に定め、災害発生時の連携に向けた近隣団地・周辺地域の各自治会との合同訓練にも取り組んでいる。防犯訓練の企画・実施が継続的な課題となっているが、「戸締まり・火気点検表」による各所の安全点検を毎日行っている。ケガやヒヤリハット事例はそれぞれ記録様式が整備され、ヒヤリハットの収集やその集計・分析などが今後の課題と考えられる。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>職員に求める能力・資質、人材の獲得・配置の手順などが定められている</p> <p>職員に求めるものとして、誠実・勤勉さや安定した情緒、社会人としての責任感、子ども・保護者の人格の尊重と保護者・家庭を取り巻く社会情勢への関心などを挙げ、年度の運営方針に記載するなどして職員に伝えている。職員の募集・選考及び配属決定は法人において行い、園内での配置は職員の自己評価や個別の面談で把握した各人の意向も踏まえ、園長・主任が決定することとしている。各職員が個人の判断によりがたい事業に直面した場合は園長・リーダーや専門職の判断を仰ぐこととされ、就業規則において権限を越えた専断的な行為を戒めている。</p> <p>自己評価に基づく個別の資質向上に取り組むほか、内部研鑽機会も多様に設けている</p> <p>常勤職員全員が行う自己評価をもとに園長が面談し、各人の成長希望や研修参加などを検討する仕組みを設けている。研修参加後には報告書提出・回覧によって成果確認と組織内の共有を図っており、報告書には書式を設けず、各職員が工夫して要点をまとめることで、より深い学びの定着につなげている。また「子どもの発達を助ける遊具の機能について」をテーマとした乳児3クラスでの内部研修、現場の保育事例の研究やクラス間で相互に行う観察会、系列園との職員交流や外部講師による環境認識やわらべうたの研修など、多彩な研鑽機会を設けている。</p> <p>職員の気づきや知見の共有を図りつつ、意欲や働きがいの向上にもつなげている</p> <p>前後期の総括会議で保育の振り返りを行うほか、新人を除く常勤職員が参加する研修・環境・美化・安全衛生・食事等の各種委員会活動、前述の事例研究や観察会などの研鑽機会など、職員の知見・気づきの共有と現場の改善への反映が年間を通じて行われるようにしている。またクラス間観察や個人面談の際には各職員の課題だけでなく貢献や成長への評価も必ず伝え、園内研修など各人が成果を発表できる機会も設けることで、それぞれの職員の働きがいややる気を促している。職員自己評価で意見が見られた就労環境や処遇面の改善にも今後取り組む意向である。</p>		

7 カテゴリー7		
情報の保護・共有		
サブカテゴリー1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
カテゴリー7の講評		
<p>データ・書類の各情報を適正に管理し、流出を防ぐための措置を講じている</p> <p>園内6台のPCは、使用形態や取り扱う情報の機密性等に応じてパスワードを設定し、関係職員以外のデータアクセスを防いでいる。また事務室内で管理する各種書類情報についても必要に応じ施錠保管し、データ情報の園外帯出は子どもの写真現像の際に限定し、専用のUSBメモリにより行うこととなっている。これらデータ・書類の取り扱いについては職員に適正な対処の徹底を促しているが、SNSでの守秘義務徹底など、昨今の社会情勢も踏まえつつ情報の管理・保護における遵守・禁止事項を明文化し、周知徹底を図ることも期待したい。</p> <p>個人情報保護等に関する規定・方針を定め、関係者への周知を図っている</p> <p>個人情報保護規程及び園の行動指針・保護方針などを定め、職員には入職時の確認を課すとともに、これらを記載したファイルを玄関に常置して保護者にも示している。開示請求への対応方針についても同ファイルに記載されており、請求の際の書式とともに綴っている。利用目的については入園時に保護者へ口頭で概要を説明するほか、ホームページに掲載しているが、保育所としての運営及び保育提供業務全般を網羅した用途表示という観点ではさらなる検討も期待される。ボランティア等には受け入れ時のオリエンテーションで守秘義務について説明している。</p>		

8	<p style="text-align: center;">カテゴリー8</p> <p>カテゴリー1～7に関する活動成果</p>		
	<p style="text-align: center;">サブカテゴリー1(8-1)</p>		
	<p>前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している</p>		
	<p>評価項目1</p>		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="201 416 790 595"> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」 </td> <td data-bbox="790 416 1418 595"> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない </td> </tr> </table>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない 		
	<p>改善の成果</p>		
	<p>安全衛生面を中心にさまざまな改善活動を行い、成果に結びつけている</p> <p>4月の2週間に乳児・幼児各クラスの廊下で行った保育の説明・写真の掲示の際に、保育目標も示すことで保護者のさらなる理解を図っている。</p> <p>また新園開設に伴う職員異動への対応の一環として、これまで園長が行っていた年4回の新人研修に担任を持つ他の職員も加わり、新人のみならず中堅職員の指導力伸長にもつなげるほか、乳児会では職員が主導的に企画進行を行うようにするなど、適宜の権限委譲による現場の主体性向上と研鑽の強化に取り組んでいる。</p> <p>安全面では従来の「事故報告書」の回覧と保育日誌への「事故防止のための記録」の添付によるケガ・ヒヤリハット等の共有に加え、「子どもの成長と病気」と題した園医による園内研修を行い、子どもの発熱・嘔吐・下痢などへの対応や考え方について見識を深めている。今後、看護師などによる嘔吐物等の衛生処理に関する研修も行う予定である。また前掲の「防災時組織体制」は新園への職員異動を踏まえ、9月時点で見直しを行った。</p> <p>その他地域支援の面でも「子育てひろば」利用者へのアンケートをもとに芋掘り体験を新設し、活動の充実を図っている。</p>		
	<p style="text-align: center;">サブカテゴリー2(8-2)</p>		
	<p>前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している</p>		
	<p>評価項目1</p>		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="201 1043 790 1178"> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」 </td> <td data-bbox="790 1043 1418 1178"> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない </td> </tr> </table>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない 		
	<p>改善の成果</p>		
	<p>職員の資質向上やキャリア開拓に資するための多様かつ積極的な取組を行っている</p> <p>今後予定する市立保育所の運営受託を見すえ、新園への異動者を主に中堅・ベテラン職員としてその経験をさらに活かしつつ、当園の中核を新たに担うリーダー級職員を選任し、それぞれのキャリア形成の機会となるようにしている。同時に新人研修や会議の進行役など権限移譲も適宜行い、主体性の発揮や研鑽の深化を図っている。</p> <p>また内部研鑽の機会を活発に設け、年4回行う乳児3クラスでの内部研修では、今年度は「子どもの発達を助ける遊具の機能について」をテーマに、各室の環境や子どもの活動を写真や映像を用いて検討している。毎回2クラス・年3回行う事例研究では、各クラスからの事例報告とVTRを活用した分析を行い、乳児・幼児の各クラス間で行う観察会では、担任が相互に他クラスの様子を視察して意見交換するほか、園長経験者など外部有識者の見学指導も別途行っている。さらに法人研修として行う系列園との職員交流では、同年齢クラス同士で互いの園に出向き、新たな気づきと自園のみにとらわれない「法人の職員」としての意識を促し、外部の専門家による保育環境やわらべうたの研修も設けている。</p> <p>また今年度は給与改定も実施し、若手職員を中心とした処遇向上の一環としている。</p>		
	<p style="text-align: center;">サブカテゴリー3(8-3)</p>		
	<p>前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している</p>		
	<p>評価項目1</p>		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="201 1626 790 1760"> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」 </td> <td data-bbox="790 1626 1418 1760"> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない </td> </tr> </table>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない 		
	<p>改善の成果</p>		
	<p>書類の移動・廃棄や保育における各種改善を年間を通じて行い、質の向上を図っている</p> <p>新年度開始時をはじめ、必要に応じ各種書類情報の廃棄・移動を行い、管理状況を更新して利用と検索の利便の維持向上を図っている。</p> <p>保育の面では、前後期の総括をはじめとする各種の会議・打ち合わせ等を通じて保育の援助・環境の両面における改善を恒常的に行うとともに、登園時に子どもの生活リズムを把握して一日の日課を決め、離乳食提供時には1対1で丁寧に関わって、子どものペースに無理なく合わせることで子どもが安定した時間を過ごせるようにするなど、保育目標の一つである子どもの尊厳や特性の尊重の実践に努めている。</p> <p>また保護者の理解がより深まるよう、4月の2週間に乳児・幼児各クラスの廊下に保育の説明や写真、保育目標を掲示したほか、幼児クラスで作成している年間計画を保護者にも示し、年間の行事に加え、環境認識・数や体育、文学・わらべうた・美術など、子どもたちが経験する月ごとの保育の諸活動を知ることができるようにしている。</p>		

サブカテゴリー4(8-4)	
事業所の財政等において向上している	
評価項目1	
財政状態や収支バランスの改善に向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>法人本部と連携し、短期・長期両面の観点で収支バランスの最適化を図っている</p> <p>直近の決算では固定資産取得に伴う大規模支出が計上されているが、本部からの繰り入れも加え、例年同様の積立金も確保されている。また法人において給与規程と給与表を改定し、今年度より適用しており、現給の保障と定期昇給を行いつつ、懸案であった人件費の抑制を長期的な観点で図ることができるようにしている。</p>	
サブカテゴリー5(8-5)	
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>さまざまな機会と方法によって保護者の意向を把握し、改善に活かすことに努めている</p> <p>個別においては日常の送迎時の交流や連絡帳・苦情解決制度、全体においては行事後の書面または連絡帳による意向把握、毎年度実施する都の利用者調査など、各種の機会を活用した保護者の意見・要望の収集に取り組んでいる。行事の日程についてはさらなる調整の利便向上を望む声があったことから、一部の平日開催行事を土曜日に移動させ、これに伴って会場も週末でも込み合わない場所を選定するなどの改善を行っている。また父母会と共催で行う夕涼み会では、昨年度保護者の負担に配慮し、開催準備などの分担を見直したことに対して一部に意見があり、今年度は昨年度実施しなかった父母会との開催前打ち合わせを再開するとともに、業務分担を再度検討している。さらに利用者調査で指摘のあったおむつ交換時のバケツの置き場所を変更し、衛生面の向上につなげるなど、寄せられた保護者の声への対応に努めている。</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
<div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>			
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>園のホームページなどを活用して、園情報を発信している</p> <p>園のホームページには沿革・保育理念・定員等の施設の概要が掲載されているほか、園の一日の生活の流れ・年間の行事・食事についてなどが写真とともに解説されている。さらに園庭に咲いている花についてのビデオクリップが見られるようになっており、子どもたちが自然物の中でさまざまな発見や体験を重ねていく園での生活の様子が象徴的に伝えられるなど、在宅においても園の情報や様子を知ることができるようにしている。また立川市のサイトにも園の概要や保育方針などが掲載されているほか、市による情報誌でも園のイベント情報が伝えられている。</p> <p>パンフレットは利用希望者にわかりやすい工夫が各所になされている</p> <p>入園希望者には園のパンフレットを手渡ししている。パンフレットは厚紙のカラー刷りで制作し、保育内容の核となる0～2歳児の育児担当制や3～5歳児の異年齢児保育、子どもたちが生きていくために必要な知識・技術・思考を身につけられるように準備するためのプログラムとして導入している「六つの課業」についての説明のほか、食事や健康・園内の施設の紹介・一日の流れ・行事に加え、質問の多い事柄についてのQ&Aも掲載されるなど、利用希望者にわかりやすい工夫が各所になされている。</p> <p>入園説明会や施設見学などを実施して、園の思いや保育の詳細を伝えている</p> <p>入園・見学希望の対応は随時とし、保護者の都合に合わせて個別に行っており、施設案内とともに、保育方針や取組についての説明を行っている。また外国語を母国語とする保護者に対しても十分な説明ができるように、説明方法に配慮するだけでなく、文化風習による誤解を生まないよう、相手が何を知りたがっているのかに細心の注意を払うよう心がけているとのことである。11月には入園説明会を実施し、日程は就労する保護者への配慮として土曜日に設定している。会ではスライドショーを活用して園の様子がわかりやすく伝わるよう工夫している。</p>			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>個別面談や家庭訪問を行い、保育開始に必要な子どもや家庭の状況を把握している</p> <p>入園時には園長が保護者との面談を行い、園の方針や年間予定、利用に際しての依頼事項などを「入園のしおり」や保健・離乳食等のしおりを用いながら説明し、必要な場合には専門職も同席するなど、個別の事情を配慮した保育に向けた面談を心がけ、保育開始の同意は口頭で確認している。面談の前には健康状態・生活の様子・食事の状況等の保育開始に必要な情報に関する書類の提出を得ている。また子どもの生育環境や保護者の育児の仕方をきめ細かく把握するために、担当保育士・保健師による入園前の家庭訪問もできる限り実施している。</p> <p>「親子ならし」により、入園当初の負担軽減に努めている</p> <p>入園当初には保護者の状況に合わせて可能な日数の「親子ならし」を親子一緒に保育室で過ごす形で行っている。「親子ならし」は、子どもが時間をかけ親とともに新しい環境に慣れること、保護者が園の雰囲気を知り、保育士とのコミュニケーションを図ることを目的として行っている。保護者が子どもに食事やミルクをあげる姿を見せてもらい子どもが安心できる環境をつくることで、負担の軽減、早期の担当保育士との愛着の形成につなげている。また必要な子どもには、入眠時に子どもが使用しているおもちゃやおしゃぶり、タオルの持参にも対応している。</p> <p>退園・卒園家庭に対しての継続支援に取り組んでいる</p> <p>退園家庭へは行事の案内を郵送するなどして、関係の継続に努めている。卒園後には、卒園式の様子を録画したDVDを渡す機会を設けて園に集まれるようにするほか、在籍する小学校へ年長時の担当保育士が授業参観に赴いたり、園は小学校と学童保育所の通り道にあるため、声かけをしたりするなど、支援の継続に向けたさまざまな取組をしている。また卒園児の保護者からEメールで送られてくる相談にも園長が対応しているほか、今後は出産等の要件で入園した入園期間の短い家庭への継続支援に関する方法や体制についても視野に入れた検討の意向がある。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している 評点(○○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
●あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保護者との連携による詳細なアセスメントに向け、所定の様式を活用している

子ども一人ひとりの心身及び生活状況については、保護者が提出する「健康状況表」「食事状況調査票」など園所定の様式と入園前の家庭訪問、入園時の面談での詳細のヒアリングにより把握をしている。保育経過や家庭状況の変化については発達記録に記載をし、健康状況については個人の健康記録で管理を行っている。週1回のクラス会議において子どもや保護者の状況について内容を共有し、課題の検討の確認を行って次月の計画に反映させ、一人ひとりの年齢や発達に合わせた計画に基づくきめ細やかな保育に取り組んでいる。

子ども個人の特性をとらえた計画を策定し、発達の道筋を踏まえた保育を展開している

保育課程を踏まえ、保育目標をもとに子ども個人の発達の特性をとらえたうえで保育の各計画を策定している。3歳以上児は六つの課業(体育・美術・音楽・文学・環境認識・数)の年間計画等を作成するほか、乳児はわらべうた・微細運動・粗大運動・戸外活動・環境認識等、発達に応じた目標とともに月の評価反省を翌月に活かしている。職員会議において各クラスや各職務の方針、中間のまとめ・年度のまとめの振り返りを行い、次年度の計画に活かすとともに、子どもの発達状況等を園全体で共有している。

職員間の情報共有と保護者との理解共有に努め、子どもの支援にあたっている

年度初めの懇談会で保護者へ年間の保育計画や行事について説明を行い、年間の見通しを持った保育内容の理解が深まるようにしている。また毎月の園便りやクラス便りで次月以降の計画を保護者に知らせ、保育内容の明確化を図っている。子どもの様子や計画はクラス単位・園単位の各会議等で情報共有して共通理解を図るほか、計画変更の際には各会議で検討し、変更内容を園長に報告するとともに、天候等による活動内容の変更は赤字で訂正を行う決まりとしている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○ 非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>現場の実践において子どものプライバシーや羞恥心に配慮した支援がなされている</p> <p>個人情報保護方針などに本人の同意を得ない第三者への個人情報提供を行わないことを定め、ホームページ等にも記載するほか、各種媒体への園児の写真の掲載について書面で保護者へ意思確認を行っている。保育室内のおむつ交換台やシャワー、着替えスペースには衝立てを設置して周囲から見えない工夫を行い、夏の水遊びの際にも着替えを室内で行い、遊ぶ際にもTシャツを着用している。また着替えの順番が身につくような声かけを乳児の頃から行うなど、子どものプライバシーや年齢相応の羞恥心の芽生えに配慮した援助に努めている。</p> <p>子どもの発達や体調・リズムに合わせた育児と人権の尊重に配慮した支援に努めている</p> <p>0～2歳児では育児担当制によって一人ひとりに合わせた育児を基本とし、連絡帳や保護者との会話で得た情報をもとに日課を変更するなどの配慮に努めている。3歳以上児の異年齢児混合クラスでは、友達とのコミュニケーションの中で個々の主体性が育まれるよう、大人の助けは個別に行うことを心がけ、排せつのケアなども一斉ではなく必要な時に行うようにしている。また子どもが保育士を呼ぶ時は「先生」ではなく名前に「さん」を付け、保育士も子どもを「ちゃん」「くん」と名前と呼び合うことも、個人の尊重の大切さを伝える取組の一つとしている。</p> <p>虐待予防・子どもの権利侵害防止に徹底して取り組んでいる</p> <p>日常を振り返り、気づきを得る機会として園内クラス観察や他園との合同見学研修会などを実施し、子どもへの接し方を客観的に観察し合い、子どもの権利侵害防止の徹底に取り組んでいる。育児困難家庭への支援や虐待が疑われる場合の見守りに向け、行政担当者・子ども家庭支援センターとの連携体制を整えるとともに、緊急時に組織内で滞りなく情報を伝わるよう連携の徹底を確認している。また小中学校、保育所・幼稚園、子ども家庭支援センター、行政等による子ども支援ネットワークに参画し、虐待防止などの課題の共有を図っている。</p>		

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11/11
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○ 非該当	
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している 評点(○○○○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○ 非該当	
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○ 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>各種マニュアルにより業務の基本を明示し、さらなる標準化を目指している</p> <p>就業規則中に基本的な心得が列挙されているほか、感染症予防などの各種マニュアルを作成し、業務の基本が示されている。当園の特徴である育児担当制や異年齢混合保育については、別途まとめを作成し、新人職員や中途採用者にも具体的な理解が得られるよう活用している。また経験の浅い職員に対しては同まとめのみでなく、先輩保育士の育児の様子を園長・主任とともに見ながら解説・指導を行うほか、保健師からは衛生管理の手順が指導されるなど、書類のみに頼らない標準化への取組が実効性を意識して行われている。</p> <p>保育観察や各種会議などさまざまな機会を設けて検討・改善に取り組んでいる</p> <p>園内の育児の基本の維持と質のさらなる向上を目的として、保育観察(園長経験者を招き観察後意見を請う)や相互観察(お互いを観察し分析する)を行うほか、乳児会・幼児会を定期的に開き、子どもの発達や大人の助け、遊具などについての理解の深化につなげている。これらの定期的な話し合いは、育児だけでなくとどまらず、保護者への対応や園内の要修繕箇所の確認など、さまざまな職員の気づきを共有し合う場としても機能している。またメンテナンスを担当する職員と保育現場との連携のもとで継続的な環境の整備・改善活動も営まれている。</p> <p>個人の学びを組織の学びとする取組が意欲的に展開されている</p> <p>採用から3年間の新人研修、外部の研修機関による5年目研修・10年目研修への派遣やクラス観察会、他園との合同見学会などを行っている。加えて今年度は共通理解を得る機会として、「遊具」をテーマに遊びから発達を理解する取組を行っているほか、研修委員会が中心となり、ケーススタディについてグループ討議なども行っている。また研修派遣後には報告書の提出を課し、職員会議には研修報告の時間を設け、個人の学びを組織の学びにつなげるなど、資質向上の取組が意欲的に展開されている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	37/37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている				
評点(〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○ 非該当
評価項目1の講評				
<p>子どもの全体的姿を把握し、主体的に活動できるように環境構成を工夫している</p> <p>幼児の発達記録は、成長の指標として子どもの身体的能力や言語能力・思考力・記憶力等について3年間の経過を個別に記録し、これをもとに一人ひとりの発達支援を行っている。また年間計画や月案の中に個人への配慮を記載する欄を設けているほか、0～2歳児では毎月個別に発達記録を作成し、子どもの全体的な姿の把握に努めている。各保育室内は子どもの興味や発達に合わせた玩具が取り出しやすい位置に置かれ、子どもが自主的・自発的に遊び込み、かつそれが妨げられることのないような工夫と取組を行っている。</p> <p>子どもの興味を広げる保育の工夫とさまざまな特性を持った子どもへの対応に努めている</p> <p>環境認識のテーマ「家族」「人間」を採り上げ、さまざまな国の人や生活の違いを伝えている。写真や本、諸外国にちなんだ雑貨等を並べ、子どもが異文化へ興味を持つきっかけを作り、さまざまな文化に対しての好奇心や探究心を培っている。配慮が必要な子どもには発達状況等に応じて定期的に専門家の巡回相談を受け、個々の子どもに応じた関わりの助言を得て支援に活かしているほか、職員が積極的に研修を受け、生活全般での促しや集団での関わり方についての学びを得て会議等でケース研修として共有をしている。</p> <p>各年齢に応じた対応で自分で解決できるような力やお互いをいたわる気持ちを育んでいる</p> <p>年度当初の懇談会や園便り・クラス便りを通して、保護者に発達の過程で生じるトラブルについて伝え、理解を得るようにしている。またトラブルの要因になりうる場面の想定をして環境設定を行い、実践においてそれらが発生した場合は環境や日課での振り返りを行い、子どもが安定した気持ちで過ごせるような環境と援助に努めている。幼児のトラブルについては子ども同士で解決ができるような導きを行い、双方の気持ちを受容したうえで見守り、子どもが相手の気持ちや自分自身の気持ちの折り合いをつけられるような働きかけを行っている。</p>				

2 評価項目2

家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

一人ひとりの発達状況を把握し、それぞれの子どものに応じた対応や支援にあたっている

登園時は保護者との会話を通して子どもの健康状態を把握しているほか、0～2歳児は連絡帳に記入をされた家庭での様子をもとに視診を行い、個々に即した一日の流れの見通しをつけている。0～2歳児は担当制をとり、担当職員が一人ひとりの心身状態や個性を把握して細やかな対応に努めることで、子どもとの信頼関係を築き、子どもが安心して園での生活を過ごし、情緒の安定と意欲の高まりを得られるようにしている。また担当以外の保育士も保護者への対応にあたるよう、担当からの伝達や保護者の要望等を周知伝達する仕組みを整えている。

子どもの生活習慣の自立に向けて、個別の成長発達の把握と関わりに努めている

基本的な生活習慣の確立に向け、年度当初の懇談会にて年間を通した発達や関わりを見通しを説明し、家庭との連携を図りながら個々のペースで無理なく進めるようにしている。子どもの発達に応じて段階的に見守りや声かけなどの関わりを行い、子どもが意欲的に取り組めるように促している。トイレトレーニングについては担当が排尿間隔を把握し、便器に興味を示した頃にまずは座り便器に慣れることから始めている。着脱は脱ぎ履きしやすいように手作りの椅子を用意するなど、意欲的に取り組めるような工夫がなされている。

穏やかな雰囲気の中で子どもの状況に応じた休息を促している

0・1歳児は生活のサイクルを把握して、一人ひとりの睡眠時間に合わせられるような配慮を行っている。0歳児の部屋は常時ベッドが置かれ、固定の場所で生活リズムに合わせて安心して眠れるように環境が整えられている。SIDS予防として15分おきに呼吸と状態の確認を行い、保育室内は顔色がわかる程度に採光に配慮を行っている。5歳児は就学に向けて年度末には眠らない日を設けて徐々に体を慣らし、その時間帯には3月頃より「お楽しみ活動」としてカレンダーに過ごしたい活動内容を記入、調理保育や園外活動などの展開を実践している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当

評価項目3の講評

保育活動において、保育理念や方針、目標を反映した実践に取り組んでいる

保育目標「自ら考え行動できるように子どもの発達を援助する」を保育内容の基本とし、一斉に同じ遊びを提供するのではなく、さまざまな玩具、道具・展示物や絵本等の室内環境や、自然に囲まれ四季折々に楽しめる室外環境の中で、子どもが自ら遊びを想像し、能動的に取り組めるような支援を行っている。また六つの課業(体育・音楽・文学・美術・数・環境認識)を遊びの中に採り入れ、子どもの知的関心を高め、子ども自身を知ることの喜びを体験することで、満足感や充実感を味わい、自己肯定感が高まるような保育を目指している。

一人ひとりの子どもを尊重した保育を展開し、成長を促している

乳児期には担当制をとることで個々の子どもへのきめ細やかな対応に努め、発達の段階に応じ、徐々に生活や遊びを通して仲間の中で育ち合えるような環境構成や保育者との関係構築に配慮している。子どもが集中して遊び込める環境を整備し、保育士間で環境観察を行ったり、年2回の保育計画まとめの会議にて課題や保育者の配慮等についての振り返りを行い、保育に活かしている。幼児クラスでは異年齢混合保育に取り組み、生活や遊びの中で互いを思いやり、協力してやり遂げる活動を経験することで憧れや自信を培い、豊かな情緒や社会性を育てている。

子どもが自然に親しみ、季節の移ろいを感じられる活動を支援している

天気の良い日は園庭や公園、河原に出かけ、斜面の上り下りや探索遊び、花や草摘みなど季節の事象を感じながら、意欲的に遊びを探り入れているとともに、収集した自然物を活用して染物やリース、室内装飾に活かすなど、自然の事象を身近に感じられるよう配慮している。園庭には自然の樹木を使った大型遊具が置かれ、全身を使ってダイナミックに取り組んでいる姿が見られるほか、季節の野菜の栽培や収穫に取り組み、苗植えや水やり、収穫した野菜を制作や調理活動に活かすなど、季節や自然を子どもたちが身近に体感できる活動を工夫している。

4 評価項目4

行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○ 非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目4の講評

親子で楽しめる行事を立案し、交流を深めている

行事は「保護者に見せること」ではなく、子どもが主体的に参加できること、行事の中で日本の伝統文化や季節に触れられること、子ども同士や親子で共通の体験ができることを目的としている。幼児のテーマとして「歩く」を掲げ、親子遠足では高尾山への登頂を目指したり、ウォーキングラリーで近隣の自然観察を行い親子で楽しさを共有できる内容を考案している。また「お父さんと遊ぼう会」や「親子で文化を楽しむ会」、親子クッキングなど保護者が参加できる行事を設定し、他の保護者や保育士との絆が深められるような交流につなげている。

子どもが自ら興味を持ち、進んで取り組める季節の行事や伝統行事を採り入れている

日本の伝統行事や子どもが楽しみにしている「冬のお楽しみ会(クリスマス)」など、年間を通して多彩な行事を行っている。「お正月遊びの会」ではこま回しや羽根つき、福笑いなど日本の伝統文化の遊びを通して伝えたり、節分やひな祭り、子どもの日・七夕・お月見などでは由来を学び、各行事にちなんだ食にもつなげるなど、伝統文化に親しむ行事を積極的に設けている。また「夜のお楽しみ会」は年長児が保育園で夕食作りや夜の探検を行うなど、子どもが日頃慣れ親しむ場所を新鮮に感じる中で好奇心や探究心を抱けるような行事内容となっている。

地域住民等との交流や参加により、子どもの体験と社会性を広げている

地域の方々との交流として、「夕涼み会」や「親子で文化を楽しむ会」「お正月遊びの会」など地域住民が自由に参加できる行事を行い、日程も参加の利便を考慮して設定している。また地域の自治会の避難訓練への参加や中学生・高校生の職業体験受け入れなど、さまざまな人々との交流による地域との関わりを通じて、子どもたちの体験や社会性を広げている。年間行事計画は懇談会時に内容とともに日程を知らせ、行事実施前には掲示物やプリントによる告示と説明を行い、実施後には写真を展示して参加する子どもの表情や内容を保護者に知らせている。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○ 非該当

評価項目5の講評

長時間にわたる保育のために、子どもの気持ちや負担を考慮した工夫を行っている

天気の良い日は外遊びを中心に活動を行うほかに、午後は園庭やテラスで過ごす機会を設けている。保育室内にはソファやクッションなどを置き、子どもがいつでも安心してくつろげる環境を整え、無理なく長時間を過ごせるよう配慮がなされている。また保護者を待つ気持ちを受けとめ、保育士が膝に抱いたり、子どもの要望や状態により寝転んでリラックスできる環境づくりに努めるなど、一人ひとりの子どもが一日の長い時間を負担なく、落ち着いて過ごせるように配慮している。

異年齢の子どもが長時間の保育を楽しく過ごせる工夫に取り組んでいる

3歳以上児は異年齢保育を行い、着替えや食事の配膳など生活の場面での手を差し伸べる姿が見られたり、園庭の大型遊具での遊びの中で順番を待つことや譲ることの大切さが自然と身につけられるような機会が持たれている。18時以降は1・2歳児、3歳以上児での合同保育を行う中で、少人数で取り組めるゲームや玩具を揃え、仲間同士でゆったりと取り組んだり、日中の遊びの継続ができるような配慮をするなど、異年齢での生活を子どもたちが負担なく、くつろいで過ごせるようにしている。

子どもや保護者との負担軽減への仕組みと情報伝達の仕組みが整えられている

朝の受け入れの早番担当は1週間の継続勤務として、子どもの体調の変化や保護者からの伝達事項を把握しやすく、また保護者にとっても不安なく子どもを預けられるようにしている。夕方の延長保育担当者にもできるだけ固定の保育士を配置し、子どもが安心して過ごせるよう配慮するとともに、お迎え時の保護者との信頼関係も深まるようにしている。保護者からの伝達事項はメモにし、口頭での伝達と併せて確実に伝わるように努めているほか、直接担任が伝達すべき事項については居残って伝えている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○ 非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく意欲的に食事をとれる環境づくりに取り組んでいる

幼児クラスではテーブルクロスを敷き、家庭的な雰囲気の中で子ども同士が楽しく食事がとれるような環境となるようにしている。当番の子どもが配膳を行い、食べられる量の調整を個々に行い、子どもが負担を感じることなく完食の喜びを味わえるように意欲的に食事を進めている。献立内容は旬の食材を採り入れ、和食中心にだしをベースに薄味で調理を行い、提供されている。栄養士は子どもの喫食状況を把握して形状や食べやすいメニューなどを把握し、次月の献立に活かしている。

アレルギー食など個別の状況に配慮した食事提供に努めている

入園時にアレルギーのある子どもの状況を把握し、医師の診断を受けて指示書と除去食依頼書を提出してもらい、一人ひとりの状況に合わせ代替・除去食の提供を行っている。配膳時には栄養士と担任が献立表と照らし合わせ双方でチェックを行い、専用個別トレーを使用して誤配予防に努めるとともに、喫食時はテーブルの位置を固定し、保育士が必ず側について食べるなど誤食を防いでいる。また半年ごとの受診を依頼し、除去を解除する場合は「アレルギー食除去解除申請書」を提出してもらい、家庭で食材を試した後に園での提供を開始している。

さまざまな食への取組を通して、子どもの意欲と興味を培っている

「調理保育計画」に基づき年間を通して野菜の栽培や食材の皮むき、調理保育などを栄養士や調理士を中心に保育と連携を図りながら進めている。発達に応じてソラマメやトウモロコシの皮むきを行ったり、収穫した野菜を活用して調理保育に採り入れ、育てる喜びから作る楽しさへとつなげて食に対する興味や関心を培っている。「親子クッキング」では家庭で試せる身近なメニューを採り入れ、親子で一緒に調理体験を楽しめる機会を設けている。また添加物やアレルギーの勉強会を栄養士を中心に行い、食の安全性や事故防止等の共通理解を図っている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○ 非該当

評価項目7の講評

保育士と保健師が連携し、安全や感染予防に向けた指導をしている

道具は便利であっても使い方を間違えると危険であるということや、異年齢児保育の中で年上児と年下児が遊ぶ際に動きを確認したり、ケガが起きてしまった時にはその教訓をみんなで確かめ合うなど、日常の遊びを通じたケガ予防に関する話を折々に行い、危険の予測や判断ができる力を培うよう指導している。園外への散歩時には、歩き方、信号や交差点について危険やマナーをそのつど伝えて交通ルールを教えるほか、散歩先では遊び始める前に必ず遊具の使い方や危険箇所についての注意喚起を行っている。

子どもの健康維持に向けたさまざまな取組を行っている

保健師が保育士と連携して健康教育を実践しており、イラストや道具などを用いて子どもが興味を持って取り組めるように工夫している。手洗い・歯磨き・うがいを発達に応じて個別で支援するとともに、健康維持の取組として保健師による毎日の健康観察や鼻水吸引器の利用による風邪予防、園医による定期健康診断・歯科検診を行っている。さらに日よけの設置、天然由来のものを主な成分とした蚊取り線香や虫よけの活用、園舎内の玩具はできる限り洗えるものを使用して感染症の蔓延予防を図るなど、さまざまな工夫に取り組んでいる。

保健師・栄養士の専門性を活かして健康に関する情報提供・啓発活動を行っている

薬は預からないことを原則としつつ、慢性疾患等の場合には医師の指示書により服薬介助・薬の塗布を行っている。また保護者への保健情報の提供として、季刊の「ととけっこー」で季節や社会情勢に即した保健・健康のトピックを紹介するほか、玄関入口のスペースを活用し、感染症の発生状況や対処・予防に関する情報の掲示、周辺医療機関や行政が発行するパンフレットの常置・ポスターの掲示などの情報提供を行っている。周辺の小児科・耳鼻科及びアレルギー専門医等の医療機関の情報も保健師が把握し、必要に応じて適切に対応できるようにしている。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○ 非該当
●あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目8の講評

各家庭の状況を把握し、それぞれの事情を踏まえた柔軟な対応を図っている

保護者の意向は日々の会話や連絡帳・アンケートボックス、利用者調査や保育参観後のアンケート、個人面談などで寄せられた意見などから把握し、それらを踏まえた改善にも取り組んでいる。また保護者の就労の状況によって、保育時間の変更には柔軟に対応しており、利用者調査でも実質的な満足度が9割弱と高い評価を受けている。個人面談は保護者の希望で随時対応し、懇談会についても、保護者の都合がよく、なるべく多くの方が参加できるように柔軟に日程を決定するなど、各家庭の状況を把握し、それぞれの事情を踏まえた柔軟な対応を図っている。

各種の催しにより、保護者の交流や職員と保護者の信頼関係が深まるよう努めている

今年度は「歩く」をテーマにして親子参加の行事を組み立てており、高尾山への「親子遠足」のほか、園から河川敷までのチェックポイントを親子で歩く「ウォーキングラリー」を企画している。他には「夕涼み会」「親子で文化を楽しむ会」や懇談会等、さまざまな保護者参加の催しを実施し、信頼関係が深めるよう努めている。クラス懇談会では保育園からの説明だけでなく、保護者が経験を語り合う時間を設けるなど、園と保護者、保護者同士が交流できるよう工夫している。また「夕涼み会」は保護者との共催で行い、準備や実施を協力して行っている。

各種の冊子・便りや写真などから園の活動が保護者に伝わるよう取り組んでいる

クラスの様子や玩具等の紹介などを掲載するクラス便りと園内の状況を伝える園便り「たんぽぽ通信」、保健と食事に関する情報紙「ととけっこー」の発行や、日常の保育活動をその日のうちに知らせる写真掲示などを通して、保育園での活動を保護者へ伝えている。また年度末に行う懇談会では、ビデオを使って子どもの成長や遊びの様子を保護者に伝えるほか、特に育児担当制から異年齢混合保育への移行時には、次年度を見すえて園での生活の変化について丁寧な説明を心がけ、会場も次年に使う保育室にするなど、保護者の不安の軽減に努めている。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○ 非該当

評価項目9の講評

地域の保護者からの相談に応じ、育児の不安や悩みの解消に努めている

地域子育て世帯に向けて「子育てひろば」「プレママひろば2015」を開催している。「子育てひろば」は年齢に合わせた遊具やわらべうたを用意して、0～1歳児向け、1～2歳児向けに別日程で実施している。「プレママひろば2015」では、現在妊娠中の方やこれから妊娠・出産を考えている方に助産師を講師に迎えて、リラクゼーションの方法や骨盤ケアなどについて伝えている。どちらの企画においても、保護者の育児の不安や悩み解消に向けた丁寧な対応を心がけ、保護者同士が結びつきを持てるよう、交流の仲立ちにも力を注いでいる。

「子育てひろば」「出張わらべうた」を通じて園の機能を地域にも提供している

「子育てひろば」等の企画を通じ、保護者同士が自らネットワークを創り出し、互いに連絡を取り合い、時には相談し合う姿が見られている現状から、地域の子育て支援家庭への支援では園が地域の保護者の居場所として機能することが重要であるとの認識をもち、今年度東京都の補助制度の中から除外された事業についても、その重要度に鑑みて継続を決定している。保育所が持つ相談機能や遊びや育児の楽しさの伝達というソフト面、居場所としての園舎の提供というハード面の両面からの支援が、地域の子育て力の向上に向けて意欲的に行われている。

地域支援のさらなる充実に向け、ニーズと現状を踏まえた取組に努めている

地域支援担当の職員が事業の中で得た気づき、保護者からヒアリングした内容などは職員会などで報告され、検討されている。前回の第三者評価受審時に検討段階にあった地域向けの情報紙が現在発刊されており、今後の課題としてニーズの存在が明らかになっている一時保育への対応が挙げられているが、物理的・人的状況から、地域サービスのさらなる量的な上積みを行う困難性も認識されており、これまで取り組んできた活動をさらに深め、地域支援は一人ひとりとの関係をさらに充実した取組とすることを基本としている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	遊びを通して学び合う課業や異年齢保育を通じて意欲や人間関係の構築を促している	
内容①	0～2歳児は安定した情緒を育むために担当制をとり、情緒の安定や信頼関係を深め、一人ひとりの子どもと丁寧に関わり、心身の変化や発達を把握した細やかな保育に努めている。0・1歳児クラスでは生活リズムや登園時間に配慮をした食事や午睡の日課を定め、個々のリズムを尊重した支援に努めている。幼児では年齢に応じて計画的に課業を採り入れ、遊びを通して学びを無理なく実践する保育を展開している。また3歳以上児の異年齢保育で社会性や協調性、思いやりなどを育み、子ども同士が自ら育ち合える豊かな保育の展開につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している
タイトル②	積極的に学び合う組織風土の中で、職員の資質向上への取組が活発に行われている	
内容②	保育理論に関する外部研修へ職員を派遣し、研修報告を行って職員間での知見の共有に努めるほか、園内における保育観察・他園との保育観察や職員会議で保育の見直しを行い議論するなど、職員相互によるOJTも行われている。また研修委員が毎年テーマを変えて企画・実践する園内研修、定期的に行われる子どもの発達の理解を深めるための話し合いのほか、経験の浅い職員の学びの材料となるよう、これまで蓄積してきた指導案とその実践の記録を整理分類するなど、積極的に学び合う組織風土の中で、職員の資質向上への取組が活発に行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-2	職員のやる気向上に取り組んでいる
タイトル③	保育実践や業務量の平準化に向けたサポート体制の強化が図られている	
内容③	保育教材の準備・作成など多岐にわたるさまざまな園内の仕事をサポートする体制を強化し、運営の安定と業務の平準化や効率化が図られている。フリー保育士とメンテナンス担当のパート職員が共同して担当し、目的に応じて各人の特技を発揮して営まれている。保育士が日々の子どもとの活動や保護者対応、研修などに全力集中できるようにバックアップするほか、準備等の時間を縮減して業務負担の縮小にもつながるようにしている。また指導案に即した教材作成に必要な素材の整理にも取り組むなど、保育実践を下支えする活動となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	安全・安心につながる食へのこだわりとさまざまな取組を通して、子どもの食べる意欲や食への関心を培っている
	内容	食材に関して毎月放射能検査を受けているほかに、産地を指定して調達したり、なるべく添加物の少ない調味料を使用するなど、安全で安心できる食材にこだわっている。離乳食では一人ひとりの成長や発達を把握して形状や段階を見極め、個々の生活リズムに合わせた提供時間や内容を家庭と連携を図りながら進め、栄養士と保育士が連携して行う調理活動や幼児が中心となり土作りから始める栽培活動など、さまざまな食にまつわる取組も行い、子どもが食事を楽しみ、興味や食べる意欲を持てる配慮に努めている。
2	タイトル	子どもが主体的に取り組める行事を考案し、年齢や発達に応じて達成感や充実感を感じ、自己肯定感を持てるよう工夫をしている
	内容	行事は日常の生活と遊びの積み重ねの延長線上での取組としてとらえ子どもが主体的に関わり意欲を持って取り組めるような内容を考案している。年間を通しての伝統行事では染物や制作、調理活動などにも活かしたり、親子で楽しめる遠足や父母会と共催する「夕涼み会」での盆踊り・模擬店、年長児がメニューを考え、買い物へ出向き仲間同士で協力し合って調理する「夜のお楽しみ会」など、協調性や役割を果たす責任感などにつながる体験を通して一人ひとりの満足感や充実感を育み、自己肯定感を感じられるよう配慮をしている。
3	タイトル	日々の会話や連絡帳でのやり取りのほか、個人面談や親子参加のイベントなどを通じて、保護者との共通理解を深めている
	内容	入園前のアセスメント時においては、文字情報だけに頼らず、その家庭が何を大切にしているのかを会話の様子や内容を踏まえて把握するように努めている。入園後も日々の保護者との会話や連絡帳のやり取りのほか、懇談会・個人面談・保育参観に加え、親子で参加するイベントを企画するなどして、園と保護者の共通理解が深まる機会をさまざまに設けている。また園便りには園長のコラムを掲載して、園の育児担当制やわらべうたの取組を紹介しながら園が大事にしている親子の愛着の大切さなどの思いを伝えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中・長期及び各年度の計画には、園としての課題をより具体的に反映させ、取組の実行と成果獲得につながることを望まれる
	内容	24年度からの施設整備に関する5か年計画と年度ごとの事業計画を作成し、課題解決や園運営の指針としている。5か年計画は市立園運営委託など情勢の変化も影響し、途中で休止している状況だが、今後想定される園舎の修繕、一時保育事業実施に向けた検討など、保育・運営面での重点課題を中・長期的な観点で計画に示し、定期的に進捗を確認しながら取組を進めることを検討されたい。また事業計画にも毎年度の運営に共通する定型的要素に加え、中・長期計画との連動を意識した年度ごとの重点課題も盛り込み、取組の実行につながることを望まれる。
2	タイトル	組織の望む職員の育成や各人のキャリアパス形成をより効果的に行うために、現行の仕組みの精度をさらに高めることを検討されたい
	内容	個別の育成の仕組みとして、常勤職員の自己評価と園長との面談に基づいて各人の成長希望などを把握し、研修派遣などに活用する取組を行っている。自己評価の様式には園・経営層からの助言・成長希望、目標に対する達成評価などの記入欄を設け、より計画・反省のつながりを明確化することも検討されたい。また経験や職位・職種ごとに求める能力・資質を明確にし、前掲の制度と連動させることで、園・法人の望む職員の育成や各人のキャリアパス形成をより効果的に行う仕組みについても、今後の中・長期的な課題としては検討の余地はあると思われる。
3	タイトル	新たなメンバーとの共通理解、園文化の伝承に向け、園の歴史の中で蓄積された組織の知的財産を明文化する工夫を期待したい
	内容	外部研修への積極的な参加や園内での保育観察、指導案の整理分類など、職員の資質向上や園の保育力を高める取組が活発に行われている。経営層は新園開設に伴う新メンバーを迎えての園の再スタートを機に、新たな学びの仕組みを構築したいと考えており、今回の職員構成の変動を向上の機会ととらえている。今後はさらなる職員間の共通理解や新人への確実な園文化の伝承を進めるためにも、園の歴史がつむいだ文書化されていないさまざまな知見・ノウハウやベテラン職員の経験についても、組織の知的財産として可視化し、次代に継承する取組を期待したい。